

## 日本糖尿病協会発行の「自己管理応援シール」を用いたクリニックと保険薬局の低血糖指導と課題抽出

### 【所属、氏名】

1 総合メディカル株式会社 そうごう薬局 天神中央店、2 医療法人一生会 はやしだ内科クリニック

橋口 知香 1、郡司 清志 1、末永 美樹 1、吉田 陽香 1、中村 泰朗 1、林田 英一 2

### 【目的】

糖尿病専門医のクリニックを受診する患者において、低血糖リスクのあるインスリン等を使用しながら、低血糖を起こした経験のない患者に多く遭遇する。この場合、患者の低血糖リスクへの認識が低くなる恐れがある。日糖協発行の「自己管理応援シール」は、医療者と患者が治療薬の低血糖リスクの有無や、治療目標 HbA1c 値を共有できる療養指導ツールとして昨年より展開されている。今回はやしだ内科クリニック（以下、クリニック）とそうごう薬局天神中央店（以下、当店）において、上記シールを活用した患者指導と、治療目標や低血糖についての患者の認識調査を行い、低血糖指導への課題を抽出した。

### 【方法】

2018年10月～12月にクリニックを受診し、当店に来局した糖尿病患者のうち、同意を得た患者100名に対し、治療薬の低血糖を起こしやすさの認識と、低血糖の知識に関するアンケート調査を実施し、「おくすり治療中シール」を用いて治療薬の低血糖リスクの指導を行った。クリニックでは「目標 HbA1c 値シール」を用いて医師が治療目標を提示した。

### 【結果】

対象患者100名のうち、低血糖リスクのある薬（インスリン、SU薬、グリニド薬）を使用していたのは25名であった。そのうち、アンケートにて低血糖が起こりやすい血糖値の目安を「70mg/dL以下」と解答したのは17名（68%）であった。また、3か月内で低血糖の訴えやブドウ糖提供を希望した患者は各10名程度であるにも関わらず、自身の治療薬が低血糖を起こしやすいという認識を持っている患者は2名と少なかった。

### 【結論】

今回、「おくすり治療中シール」は、患者の治療薬の低血糖の認識を明らかにするきっかけとなった。今まで低血糖の経験がない患者も、シックデイや絶食により低血糖が生じる可能性があるため、今後はクリニックと連携し、低血糖の知識や対応方法について患者個々に応じた指導を強化したい。